

令和4年度第2回さいたま市都市農業審議会

議事要旨

1. 日時

令和4年11月29日（火）10:00～10:40

※新型コロナウイルス感染拡大防止のためウェブ会議により開催

2. 場所

危機管理センター 関係課会議室

3. 出席者

区分	人数
さいたま市都市農業審議会委員	10名
事務局職員（農業政策課）	7名

※委員については、別紙「委員出欠名簿」参照。

4. 公開又は非公開の別

非公開

5. 開会

事務局より会議開催にあたり、次のことについて報告があった。

- ① 定足数を満たしていることから、本日の審議会が成立していること。
- ② さいたま市情報公開条例第23条により会議は非公開となっていること。

6. 委員紹介

7. 委員長あいさつ

8. 議題

(1) 議題1 人・農地プラン（案）について

事務局より、資料1もとに説明後、質疑応答が行われた。

【質疑応答】

- ① 島根地区について、地域に中心的な担い手がおらず、外部からの新規参入者に担い手になっていただく方針とあるが、現状で貸付意向のある農地は団地化しておらず面積も大きくないため、借りる側も借りづらいと思うが、その見通しや、議論があるか伺う。（高柳委員長）

農地が分散していたり、狭小な場合、参入者を見つけづらいことは地元へも説明している。地域の話し合いでは、周辺の農地を含めて団地化

して、企業参入エリアと既存の担い手の耕作エリアを分けて、うまくゾーンニングして参入者を受け入れられればと話している。すでに島根地区においては参入を希望している企業があり、地元との話を進め、少しずつゾーンニングをしながら、うまく企業参入できるモデルケースにしたい。
(農業政策課)

- ②大野島地区と野孫地区については、すでに農地中間管理事業を進め、モデル的な地区となっており、さらに事業の推進をお願いしたい。大野島地区では中心経営体が13経営体あり、規模拡大の意向がある担い手も多い。拡大の内容の中で経営作目の部門別、例えば、農業者Gは現状の10ヘクタールから18ヘクタールへ拡大とあり、経営作目は水稲、露地野菜とあるが、アンケートでは部門別まで掘り下げて聞いているのか。県において、水田等へ高収益作物として野菜の作付け拡大を進めており、産出額向上を目指した取組を進めているが、それと合致しているとありがたいが、いかがか。(福島委員)

アンケートでは掘り下げていないが、拡大意向のある担い手に個別にヒアリングしており、概ねどの作目を増やしたいか伺っている。農業者Gは主に水稲を経営しているため、水稲で規模拡大したい意向である。G以外は露地野菜が主な経営作目の担い手が多いので、畑を増やせば理想的であるが、大野島地区の農地は田が多く、なかなか畑が出づらいのが現状であり、野菜で拡大といってもなかなか難しい部分もある。(農業政策課)

個別に聞き取りをされ、きめ細やかに把握していることが分かった。今後、野菜の作付け拡大意向のある担い手の情報があれば提供してほしい。(福島委員)

9. 閉会

問合せ先

経済局 農業政策部 農業政策課 農業政策係
電話 048-829-1376

令和4年度 さいたま市都市農業審議会 委員名簿

区分	所属団体等	役職等	氏名	備考	出欠
学識経験者	東京農業大学	食料環境経済学科 教授	高柳 長直	委員長	出席
学識経験者	人間総合科学大学	人間科学部 ヘルスフードサイエンス学科 講師	本山 陽子		欠席
学識経験者	埼玉県	埼玉県 さいたま農林振興センター所長	福島 恵美子		出席
農業者	さいたま市農業委員会	会長	西形 知行		出席
農業者	さいたま農業協同組合	女性部 中部ブロック ブロック長	磯部 光枝		出席
農業者	南彩農業協同組合	女性部 部長	桑原 由枝		欠席
農業者	さいたま市女性農業者 連絡会	会長	小島 隆子	副委員長	出席
農業者	さいたま市認定農業者連絡 協議会	会長	笠原 勇		出席
農業関係 団体	さいたま農業協同組合	代表理事組合長	清水 節男		欠席
農業関係 団体	南彩農業協同組合	代表理事組合長	菊池 義雄		欠席
事業者	イオンリテール株式会社 北関東カンパニー	エリア政策推進チーム チームリーダー	平井 一巳		出席
事業者	株式会社大宮中央青果市場	総務部 執行役員	久家 慶子		出席
公募			高本 正広		出席
公募			藤岡 佳奈恵		欠席
職員	さいたま市	経済局理事兼農業政策部長	下村 勝己		出席